



大学合格で“そろばん”に感謝

早稲田大学 2年 大平 優

初めに天津支部の先生方に私のような者にこのような機会をいただき厚く御礼申し上げます。

母がそろばん教室を営んでおり、幼少期からリュックを背負い、生徒たちが教室へ「こんにちは、お願いいたします」と入ってくる光景を見て「そろばんやりたい」と言ったそうです。数字の8も書けず○と○の間があき、もう一つ○を書けば申団子でした。

小学校1年生の秋から京都府の西京都学院に入塾し、年上の選手の方と一緒に練習し、大会や検定で切磋琢磨していきました。そのおかげで中学3年生の10月に珠算10段を取得できたので、お題のような、決して“そろばんで凄い人”ではありません。

4ヶ月後の2月には、珠算、暗算とも満点をだし、当時史上二人目10年ぶりの満点合格。奇跡のような点数成績を見て、号泣したことは今でも覚えております。

そのお蔭で地方新聞やYahoo!にも取り上げていただき、それを見られた英国BBCから取材を受けました。

大学受験になり、一次試験書類選考で302人の中から70名程度の合格者。何とか通過し、そこから、各ブロックごと、北海道、東北、関東、北陸、東海、中国四国、近畿、九州ブロックで各5名程度の合格。定員35名の要項です。二次試験は、午前中小論文で午後から面接でした。

周りには多分それぞれの分野（スポーツや文化系）のすご技の人たちばかりです！周りを気にすることは一切せず、試験会場を出る時には、立ち上がれなくなっても満足で終わりたかった。

面接が終わり想定外の質問に答えられず東京駅で大号泣してしまいました。伝えたいことを言え

ず、質問には“わかりません”としか言えず、後悔と脱力感で帰路しました。結果が出る20日間の日々はただ祈るだけでした。合格の文字を見た時は、ひと目も気にせず泣き、担任の先生にも学校の廊下まで響きわたる声で喜んでいただきました。そろばんをしていたことに“感謝”の瞬間でした。

担任から卒業証書をクラスで授与され時に、「大平さんには、そろばんという誰にもできない特殊な能力がある、これからもがんばってください」と送り出されました。

そろばんを習って、大会に出る度に挫折し、帰路の電車では沈黙があったり、「継続は力なり」を実感しました。それと同時に、ご指導していただいた先生方にこの場をおかりしてお礼を申し上げたいです。本当にありがとうございました。

次は、2年後就職活動に直面することになりますが、どんな向かい風にも対応できるメンタルで挑みたいです。また様々な大会をとにかく楽しんで参加したいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。

